

# NEWS LETTER

---

2021年2月22日  
一般財団法人岩手経済研究所

## 「いわて景気ウォッチャー調査」－2021年1月調査－について

一般財団法人岩手経済研究所（理事長：高橋 真裕）は、定例の「いわて景気ウォッチャー調査（2021年1月調査）」を実施しました。

本調査の結果は以下のとおりです。

現状判断 29.8

※前回（2020年10月）調査比22.0ポイント低下

先行き判断 34.8

※同5.7ポイント低下

本調査の概要は、別紙「いわて景気ウォッチャー調査結果－2021年1月調査－」のとおりです。  
また、詳しくは2月26日発行の当研究所機関誌「岩手経済研究 2021年3月号（No.460）」にも掲載いたします。

2021年 2 月 22日

# いわて景気ウォッチャー調査

－ 2021年 1 月調査 －

盛岡市中ノ橋通一丁目 2 番16号  
岩手銀行中ノ橋支店 3 階

一般財団法人 岩手経済研究所  
理事長 高橋 真裕

(担当 地域経済調査部 高橋 宏輔)  
TEL 019-622-1212

# ＜ 調査結果の概要＞

## 1. 県全体の状況

### 景況判断は現状、先行きともに50を下回る

#### (1) 現状判断 ～2期ぶりに50を下回る～

県内の景気の現状判断指数は、29.8と前回(51.8)に比べ22.0ポイント低下し、景況感の分かれ目とされる50を2期ぶりに下回った。新型コロナウイルスの感染拡大に伴うGoToトラベル事業の一時停止や緊急事態宣言の再発令などの影響を受け、家計動向、企業動向、雇用すべての分野について指数の悪化がみられた(図表1)。

回答構成比は「良くなっている」「やや良くなっている」が11.0%(前回36.0%)、「変わらない」は26.0%(同33.0%)と減少した。一方、「やや悪くなっている」「悪くなっている」が63.0%(同31.0%)と増加した(図表2)。

分野別では、家計動向関連指数が25.4(同54.4)、企業動向関連指数が40.2(同46.7)、雇用関連指数は36.1(同44.4)といずれも前回より低下した。

家計動向関連では、消費マインドの低下や消費拡大に向けた政府の施策の一時停止による影響を示す回答があった。また、企業動向関連でも受注の減少を指摘する声があったほか、雇用関連においても同ウイルスが影を落としていることを示す回答がみられた。

地域別では、県央地域が26.4(前回52.7)、県南地域が29.6(同48.6)、沿岸地域が34.7(同56.9)、県北地域が33.3(同50.0)となった(図表5)。

#### (2) 先行き見通し ～先行き判断は11期連続で50を下回る～

2～3カ月先の県内の景気の先行き判断指数は、34.8と前回(40.5)に比べ5.7ポイント低下し、11期連続で50を下回った(図表3)。

回答構成比は「良くなる」「やや良くなる」が15.0%(前回19.0%)、「変わらない」は31.0%(同36.0%)と減少した。一方、「やや悪くなる」「悪くなる」は54.0%(同45.0%)と増加した(図表4)。

分野別では、家計動向関連指数が32.0(同41.5)、企業動向関連指数は44.6(同40.2)、雇用関連指数は30.6(同33.3)となった。

不動産関連の堅調な需要は継続するとの回答があったものの、引き続き政府の施策が停止されていることによる不安や新型コロナウイルスの影響を受けて新規採用を手控える動きを危惧する声もあった。

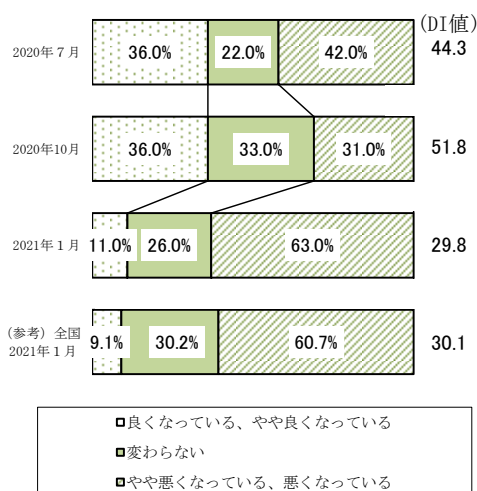
地域別では、県央地域が37.1(前回42.6)、県南地域が32.2(同41.2)、沿岸地域が31.9(同36.1)、県北地域が41.7(同37.5)となった(図表5)。

(ウォッチャーのコメントは参考1、調査要領については参考2をそれぞれご参照ください。)

図表1 景気の現状判断指数（DI）の内訳

分野	2020年7月	2020年10月	2021年1月	増減
合計	44.3	51.8	29.8	△ 22.0
家計動向関連	48.1	54.4	25.4	△ 29.0
小売関連	50.0	51.0	33.9	△ 17.1
飲食関連	57.1	58.3	13.5	△ 44.8
サービス関連	43.1	56.6	11.8	△ 44.8
住宅関連	37.5	53.1	46.9	△ 6.2
企業動向関連	38.5	46.7	40.2	△ 6.5
雇用関連	30.6	44.4	36.1	△ 8.3

図表2 回答構成比（現状判断）

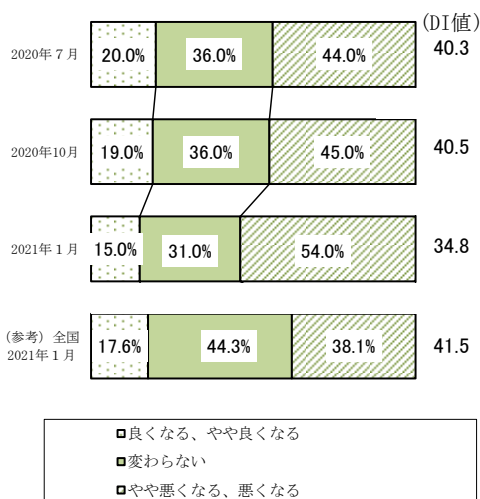


(注) 単位未満四捨五入につき合計が100%とならない場合がある

図表3 景気の先行き判断指数（DI）の内訳

分野	2020年7月	2020年10月	2021年1月	増減
合計	40.3	40.5	34.8	△ 5.7
家計動向関連	42.5	41.5	32.0	△ 9.5
小売関連	39.8	39.4	34.8	△ 4.6
飲食関連	41.1	48.3	19.2	△ 29.1
サービス関連	48.6	39.5	28.9	△ 10.6
住宅関連	40.6	40.6	50.0	9.4
企業動向関連	39.6	40.2	44.6	4.4
雇用関連	25.0	33.3	30.6	△ 2.7

図表4 回答構成比（先行き見通し）



(注) 単位未満四捨五入につき合計が100%とならない場合がある

図表5 地域別の景気判断指数

地域	景気の現状判断指数（DI）				景気の先行き判断指数（DI）			
	2020年7月	2020年10月	2021年1月	増減	2020年7月	2020年10月	2021年1月	増減
合計	44.3	51.8	29.8	△ 22.0	40.3	40.5	34.8	△ 5.7
県央地域	47.7	52.7	26.4	△ 26.3	37.5	42.6	37.1	△ 5.5
県南地域	41.9	48.6	29.6	△ 19.0	39.4	41.2	32.2	△ 9.0
沿岸地域	46.1	56.9	34.7	△ 22.2	47.4	36.1	31.9	△ 4.2
県北地域	38.9	50.0	33.3	△ 16.7	38.9	37.5	41.7	4.2

【参考1：景気ウォッチャーの主なコメント】

	分野	判断	判断の理由	
現 状	家計 動向 関連	やや良	新型コロナウイルスの影響で業績が最も悪化した8月から徐々に売上げが伸びてきており、底打ち感がある。(県北：菓子小売業)	
		やや良	家庭用の灯油の注文が増えた。背景には企業における在宅勤務の増加や近年まれに見る寒波の影響があると考えられる。(県央：燃料小売業)	
		不変	客数および売上げについて3カ月前と変化がなかった。(県南：コンビニエンスストア)	
		やや悪	年末年始の帰省客が減少したことなどが影響し、例年より初売りの売上げが減少した。(沿岸：各種商品小売業)	
		やや悪	近隣で同ウイルスの感染者が確認されてから人の流れが止まってしまい、景気が好転する材料が見当たらなかった。(県北：クリーニング業)	
		やや悪	県内で同ウイルスの感染者が連日確認されたことから、消費者が外食を控える動きが顕著となった。感染対策なども限界があり、打開策が見出せなかった。(県南：飲食業)	
		悪	観光だけでなくビジネス目的の利用客も減少した。GoToトラベル事業の一時停止および緊急事態宣言の再発令により日本の経済全体が止まってしまったように感じる。(沿岸：旅館業)	
		悪	同ウイルスの感染拡大により個人客の売上げが伸び悩んだことに加え、ホテルからの受注も大きく減少した。(県央：菓子小売業)	
	企業 動向 関連	やや良	見積案件数および受注数が10月と比べて3～4割増加した。(県南：金属機械加工業)	
		悪	同ウイルスの感染拡大を受けてイベントが中止あるいは縮小開催となったことなどから受注が減少している。(県南：食品品製造業)	
	雇用 関連	やや悪	同ウイルスの収束の目処がつかないなか、求人広告は減少した。(県南：新聞求人広告)	
		悪	同ウイルスの感染拡大で大きなダメージを受けた宿泊業や飲食業を中心として、従業員たちは解雇などの不安を感じている。(県央：県就業支援担当)	
	先 行 き	家計 動向 関連	やや良	土地と建物の取引に関する需要は今後も伸びていく見込み。(県央：不動産取引業)
			やや良	同ウイルスの感染拡大が収束に向かうと予想しており、業績は改善する見込み。(県南：コンビニエンスストア)
不変			2～3カ月前に同ウイルスのワクチン接種が始まったとしても、すぐに景気が上向くわけではなく我慢の時期が続くと思われる。(県北：飲食業)	
不変			同ウイルスの感染者が毎日報道されており、宴会や各種イベントの中止など状況は変わらないものと思われる。(県南：タクシー業)	
やや悪			常連客が同ウイルスの感染リスクを回避するために来店する頻度を減らすなど、売上げの減少が懸念される。(県央：理容業)	
やや悪			牛の価格の下落が予想されるなか、後継者不在の状況も相俟って廃業を余儀なくされる零細業者が増加することが懸念され、売上げはやや減少すると思われる。(県南：肥料飼料卸売業)	
悪			GoToトラベル事業の停止が続くことが予想されることから観光客の増加が見込めず、地元客による宴会利用もないため売上げは減少する見込み。(県南：観光事業)	
悪			プレミアム付き食事券の追加発行など、行政による支援がなければ客足は遠のくと思われる。(沿岸：飲食業)	
企業 動向 関連		やや良	新規顧客の拡大を見込んでいる。(県央：税理士事務所)	
		不変	売上げは横這いの状況で推移する見込み。(県南：食品品製造業)	
雇用 関連		不変	例年3月末にかけて臨時職員、パート職員などの募集が増加する傾向にあり、状況は良くなると予想するものの、同ウイルスの影響の大きさを考慮すると楽観はできない。(県央：新聞求人広告)	
		悪	先行きの不透明感から企業では採用に係る予算を削減する状況が続いており、就職活動は一層厳しさを増す恐れがある。(県央：学校就業担当)	

## 【参考2】

# ＜ 調査要領 ＞

## 1. 調査内容

- (1) 景気の現状に対する判断
- (2) (1)の理由及び具体的状況の説明
- (3) 景気の先行きに対する判断
- (4) (3)の理由

※(1)、(3)は5段階評価による回答とする。

## 2. 調査時期

2021年1月

## 3. 調査対象者・方法

県内の景気の動きを観察できる立場の方々113名への郵送、電話による聴取（内容は下表のとおり）。

### 調査対象者の分野・業種

分野 (調査対象者数)	調査対象者の代表的な業種
家計動向関連 (78名)	小売関連 (30名) 百貨店、スーパー、コンビニ、 一般小売店、自動車販売など
	飲食関連 (18名) 飲食店、割烹・料理店、スナック、 外食チェーンなど
	サービス関連 (22名) ホテル・旅館、クリーニング店、 ガソリンスタンド、タクシーなど
	住宅関連 (8名) 建設設計事務所、不動産販売、 住宅販売など
企業動向関連 (25名)	製造業、広告代理店、運輸業、 農林水産業など
雇用関連 (10名)	人材派遣、学校就業関係者、 求人広告など

### 調査対象地域の区分

地域 (調査対象者数)	市町村
県央地域 (40名)	盛岡市、八幡平市、滝沢市、 雫石町、葛巻町、岩手町、 紫波町、矢巾町
県南地域 (44名)	花巻市、北上市、遠野市、 一関市、奥州市、西和賀町、 金ケ崎町、平泉町
沿岸地域 (19名)	宮古市、大船渡市、陸前高田市、 釜石市、住田町、大槌町、 山田町、岩泉町、田野畑村
県北地域 (10名)	久慈市、二戸市、普代村、 軽米町、野田村、九戸村、 洋野町、一戸町

## 4. 回答状況

有効回答数 100件

回収率 88.5%

## 5. 指数(DI値)の算出方法

5段階の判断に、それぞれ下表のとおり点数を与え、これらに各判断の構成比(%)を乗じてDI値(Diffusion Index)を算出する。DI値は50を目安としており、50を上回っていれば景気の上昇局面、下回っていれば下降局面と判断する。

### 指数(DI値)点数表

回答区分	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
点数	+ 1.00	+ 0.75	+ 0.50	+ 0.25	0.00